

『大学生からプレゼンテーション入門』
インストラクターズ・マニュアル

中野美香・宮本知加子

福岡工業大学

目次

はじめに	ii
プレゼンテーション授業概要	1
指導ガイドライン	4
授業日記	33
著者紹介	54

はじめに

本書は、コミュニケーション教育に関心をお持ちの先生を対象に『大学生からのプレゼンテーション入門』の副読本として作成したものです。授業に導入する際に指針となる、タイムスケジュールを含めた指導のガイドラインと、教科書だけでは伝えきれない授業全体や学生の雰囲気を書いた授業日記で構成されています。

福岡工業大学工学部電気工学科でのコミュニケーション教育は2007年からはじまり、2012年からは就業力育成科目として全学展開されています。これまでの成果を踏まえて、本書は2012年4月から7月にかけておこなわれたプレゼンテーションの授業を基に作成しました。

プレゼンテーションは現代社会で働くための必須のスキルとなりました。就職活動や社会人になるための準備教育としてだけでなく、制作発表会や卒業論文発表会など大学生活にはプレゼンテーションの機会はたくさんあります。学習者の方々にはこれらの経験を積み重ね、スキルを研鑽していただきたいと思います。指導される先生には、講義中の経験に限らず講義内容を過去・未来の学びと結び付けて、学習者個人の文脈に位置付けていただきたいと思います。

コミュニケーション教育はどのような文脈でどのような学生にどのような先生が教えられるかによって内容は大きく変わっていくものと考えます。こういった自由度が高い教育をよりよくするためには、「この授業ではこう教えた」「そうすると学生はこうなった」という日々の丁寧な細やかな知見の蓄積および研究開発が必要不可欠でしょう。

これまでの試みを以下のウェブサイトにもまとめました。今後、コンスタントに研究論文を執筆しながら、社会の様々なニーズに合わせてe-Learningも含めて教育のコンテンツを拡張していく予定です。

今後、さらに教育内容を洗練させていくために、興味をもってください先生方や学習者の方々とネットワークを構築していきたいと考えています。ご意見・ご要望等ございましたら、お知らせいただければ幸いです。

コミュニケーション教育のための教授学習支援プログラム

<http://www.commedu.net/>

2013年5月

中野美香

nakano@fit.ac.jp

プレゼンテーション授業概要

対 象 大学2年生

期 間 半期（前期15回）

場 所 講義室、作業する際はパソコン室

使用教材 教科書：『大学生からのプレゼンテーション入門』 中野美香著 ナカニシヤ出版

科目の位置づけ

福岡工業大学工学部電気工学科では、2007年度入学生からコミュニケーション能力を育成するための講義を開講している。コミュニケーション能力を、自己や他者との議論を通じた対話的思考力およびそれに必要な表現力と捉え、段階的に力をつけていけるようなプログラムとなっている。1年次では、他者と議論できる能力を育成するため、前期必修科目“コミュニケーション論Ⅰ”と後期必修科目“コミュニケーション論Ⅱ”が開講されており、その後継科目として、2年次の前期に“プレゼンテーション”が開講されている。したがって、1年間を通じて、議論スキルをトレーニングした上での授業となるため、議論に対する大きな抵抗感はない。1年次と大きく違う点は、グループ作業となるため、自分ひとりの意見ではなく、メンバーの意見をすり合わせ、内容を練り上げていくという作業が必要となること、スライドを使って聴衆の前で発表することである。1年次のように、色々なメンバーと話をするというよりは、固定されたグループでの作業となっている。

1つの授業あたり、25程度の少人数に教員1名、TA（ティーチングアシスタント）1名を配置して開講されており、学生同士の交流がしやすいものとなっている。

科目のとらえ方

グループでの実習を通して、基礎的なプレゼンテーション能力を育成すること。

導入期：スライド作成法の基礎を学習し、クリーンエネルギーに関するプレゼンテーションを行う。

独自のテーマを設定し、グループで調査し、発表の手順について一通り理解する。

発展期：効果的に聴衆に伝えるためのプレゼンテーションの技法を学ぶ。発展期は、希望する企業研究をテーマとし、発表する技術を学習する。

達成目標

- 現在の自分に加えて他者の立場や考え方を理解できる。
- 与えられたテーマに関する事柄を必要に応じて自分で調べ、内容を論理的に整理できる。
- 自分の考えを整理して、他者に伝えることができる。さらに、他者の意見を聞いて理解し、自分との相違を明確にして議論できる。

指導上の留意点

- グループ活動では、各グループで協力して行えるよう、指導する。
- 作業内容についてよく理解させ、グループ内で作業する学生が偏らないようにする。
- 発表練習を行い、自信を持って発表できるようにする。

学生観

学生たちは、指示に従う真面目で素直な学生が多い。自分のことを「人見知り」と表現することが多く、人前で話することに苦手意識を持っている学生も少なくない。1 年次の必修科目である“コミュニケーション論Ⅰ”，“コミュニケーション論Ⅱ”を通して、他者との対話の重要性を理解することができており、議論スキルも身に付けることができているが、聴衆の前で話をするには、自信がない学生が多く、不安感や緊張感が高い。

本クラスは、25 名程度に人数わけされており、すべて男子学生である。もともと、女子学生は数名であり、本クラスは男子学生のみとなった。グループ分けは、男子 3 名、ないし 2 名の構成であり、くじで無作為に決定した。そのため、学生によっては、クラス内でもあまり話をしたことがない学生と作業を進めなければならない場合があった。

指導計画 シラバスに掲載の内容

1. スライド作成法の基礎（1）
2. スライド作成法の基礎（2）
3. スライド作成実習（1）
4. スライド作成実習（2）
5. スライド作成実習（3）
6. スライドの相互評価（1）
7. スライドの相互評価（2）
8. プレゼンテーションの技法（1）
9. プレゼンテーションの技法（2）
10. プレゼンテーションの技法（3）
11. プレゼンテーションの技法（4）
12. プレゼンテーションの相互評価（1）
13. プレゼンテーションの相互評価（2）
14. 授業内容の理解度テストおよび解説のまとめ
15. 反省学習

●半期間の主な内容と見通し

課題	回	学習内容・および活動		指導上の留意点	
		プレゼンテーション	マネジメント		
基礎編…第1回発表	1	テーマ設定 背景知識に関する講義	課題の説明：「クリーンエネルギー」＊グループづくり	目標設定❶	・プレゼン能力を育成することに加え、協働する力を身に付けていくことを意識させる。 ・毎回の課題の内容をよく理解させ、作業する学生が偏らないよう留意する。 ・グループ作業のよかった点をフィードバックしていく。 ・役割分担を確認
	2	プレゼンテーションの構成：紹介型 課題に関する注意事項 モデルのスライド紹介	【グループ作業】 ・テーマ設定 ・テーマに沿って発表概要、構成案をまとめる	タイムマネジメント❶	
	3	論理表現	・全体の枠組みができたところで情報収集	説得力と自己分析❶	
	4	ストーリーをつむぐ 自己点検項目に沿ってスライドを点検する	・スライドを作成 ・スライドを訂正	進捗状況の確認❶	
	5	レイアウト プレ発表	メンバー内で発表練習	相互評価❶	
	6	発表本番と相互評価 1		目標達成❶	
	7	発表本番と相互評価 2		成果を上げる❶	
応用編…第2回発表	8	テーマ設定 ＊グループづくり	第2回課題を発表：企業研究	目標設定❷	・就職活動を意識させる。 ・前回の発表において、改善できるところを考えさせ、次の発表に反映させる。 ・役割分担を確認 ・自信を持って発表させる。
	9	プレゼンテーションの構成：提案型	【グループ作業】 ・テーマ設定	タイムマネジメント❷	
	10	理由の質を考える 自己点検項目に沿ってスライドを点検、修正	・テーマに沿って発表概要、構成案をまとめる ・全体の枠組みができたところで情報収集	説得力と自己分析❷	
	11	ストーリーに磨きをかける	・スライドの作成と訂正	進捗状況の確認❷	
	12	シンプルに見せる プレ発表	メンバー内で発表練習	相互評価❷	
	13	発表本番と相互評価 1		目標達成❷	
	14	発表本番と相互評価 2		成果を上げる❷	
	15	プレゼンテーションのまとめ		マネジメントのまとめ	

指導ガイドライン

第1回：スライド作成法の基礎（1）

- 本時の目標**
- プレゼンテーション技能の重要性について理解する。
 - プレゼンテーションをグループで作成しながら、仕事をする上で必要な話し合いのスキルを身に付けていくことを理解する。
 - グループを決め、テーマ設定をする。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容	指導上の留意点
20 分	ガイダンス 導入 ●コースの紹介を行う。 コースの目的、授業の構成、試験と単位について、受講者に望むことを明確に示す。 ●授業を通しての作業の流れを説明する。 ※コースの目的、作業の流れは下記参照	【テキスト p.6】 ・プレゼンテーション能力を育成することに加え、グループ作業を通して、協働する力を身に付けていくことを意識させる。 ・今後の予定、作業の流れを説明し、見通しをもたせる。
40 分	講義（TA） ●背景知識に関する講義 ・クリーンエネルギーについて、幅広い知識を習得させる。	・TA のプレゼンテーションを見て、自分がプレゼンをする姿をイメージさせる。 ・今後、クリーンエネルギーについて調べるための興味関心を持たせる。
50 分	課題の発表 ●第 1 回目のプレゼンテーションの課題と注意事項を説明。 テーマ：クリーンエネルギーについて 注意事項：発表制限時間 3 分以上 5 分以内 スライドの枚数（表紙＋3～8 枚） 分担して、全員が発表すること	【テキスト p.7】 ・一人ひとりに役割を持たせ、責任ある行動をとることを意識させる。
60 分	講義 ●目標設定① 作業の進め方、ブレインストーミングの手順について説明。	【テキスト p.38】 ・まず、たくさんのアイディアを出すことが重要と強調。

85 分	演習	① グループづくり 3 人 1 組のグループをつくる。 ② テーマ決め グループで話し合い、テキストに記入。 ③ グループの目標を決める ④ 次回までに調べてくることを話し合う。 メンバーのアイディアをメモさせる。 プレゼンテーションで伝えたいことは何か 話し合う。	・くじを使うなど無作為に分ける。 【テキスト p.102】 ・グループで話し合いをさせ、 テーマを決めさせる。
90 分	まとめ	●社会人基礎力チェックと目標設定 ・自己評価と自己分析 ・どのようなプレゼンテーションにしたいの かを考え、記入する。 ●今日の作業について、教員・TA からフィー ドバック	【テキスト p.70】 ・今の自分について把握させ、 どのようなプレゼンテーショ ンにしたいのか、イメージさせ る。

【コースの目的】

グループでの実習を通して、基礎的なプレゼンテーション能力を育成すること。

導入期：スライド作成法の基礎を学習し、クリーンエネルギーに関するプレゼンテーションを行う。
 独自のテーマを設定し、グループで調査し、発表の手順について一通り理解する。

発展期：効果的に聴衆に伝えるためのプレゼンテーションの技法を学ぶ。発展期は、希望する企業研
 究をテーマとし、発表する技術を学習する。

【作業の流れ】

- グループづくり
- グループで相談しながらテーマを決定
- それに沿って発表概要、構成案をまとめる。
- 全体の枠組みができたところで情報収集
- スライドを作成
- スライドを修正
- 発表の一週間前にはプレ発表
- 本番の発表
- 聴衆からの質問にわかりやすく答える
- 発表しない場合は、質問を考え質問する
- 発表者以外はコメント
- 発表者は聴衆からのコメントを基に反省と自己評価

第2回：スライド作成法の基礎（2）

- 本時の目標**
- プレゼンテーションの構成について理解する。
 - グループ毎にテーマを決定し、発表の目的を話し合う。
 - グループ毎に教員・TAからチェックを受け、全体のスライドの構成を考える。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
20 分	講義	●本日の予定の確認 ●第1回課題（7回まで）の見通し 作業時間がどれくらいあるのかを確認する。 ●スライド構成の説明 ・紹介型プレゼン ●注意事項の確認 ・テーマ：クリーンエネルギー ・発表制限時間：3分以上5分以内 ・スライドの枚数：表紙+3～8枚 ・分担し、全員がスライドの作成・発表を行うこと。 ●モデルのスライドを見せる	・今後の予定、作業の流れを説明し、見通しをもたせる。 【テキスト p.8】 ・構成をよく理解させる。具体例を用いて説明するとイメージしやすい。 ・去年の学生の作ったスライドを見せ、イメージさせる。
30 分	講義	●タイムマネジメント タイムマネジメントについて説明 今回のプレゼンテーションにおけるマネジメントに関連させて説明し、実践できるようにする	【テキスト p.40, p.104】 ・プレゼンテーションだけでなく、今後の学校生活にも重要であることを伝える。
	課題の提示	●本日の課題について説明 テーマ・背景・目的をグループ内で考え、チェックを受けること。その後、全体のスライドの構成を考えること。	
	グループ作業	●テーマ・背景・目的を決定。 ●グループ毎に、教員・TAのチェックを受けること。 ⇒曖昧な部分があれば、もう一度書き直して再	【テキスト p.72】 ・テーマはなるべくグループ毎に被らないようにする。 ・曖昧な部分は、教員から質問し、具体的なイメージを膨らま

80 分		度チェックを受けさせる。 ●スライドの構成案をワークシートにまとめる ・次回までに調べてくることを分担。	せること。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに，社会人基礎力と関連させて，自分の態度や行動を評価させる。 ●今日の作業について，教員・TA からフィードバック	【テキスト p.105】 ・次回までに分担して調べてくるところを確認させる。 ・グループ作業においてよかった点をフィードバックする。

【紹介型の構成】

段階	内容	スライド
序論	タイトル・発表者の紹介 発表の目次 背景・目的	表紙 スライド 1 枚目 スライド 2 枚目
本論	現状分析 特徴の描写 他のものとの相違点 現状の課題	スライド 3 枚目 スライド 4 枚目 スライド 5 枚目 スライド 6 枚目
結論	まとめ・今後の展望	最後のスライド

第3回：スライド作成実習（1）

本時の目標

- 効果的な論理表現について理解する。
- グループ作業において、スライド全体の流れを考え作成する。
- グループ内で、自分の役割を考え行動する。

場 所

PC 室

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
15 分	講義	●本日の予定の確認 ●第1回課題（7回まで）の見通し 作業時間がどれくらいあるのかを確認する。 ●論理表現について説明 分かりやすい説明をするための論理表現について説明する。	・今後の予定、作業の流れを説明し、見通しをもたせる。 【テキスト p.10】 ・具体的な表現例を示す。 ・今回の授業では、背景を白に統一。
25 分	講義	●説得力を支える3要素 説得力を高めるにはどうしたらよいかを説明 論理・人格・熱意 ●自分が知らない自分に気付く ●ワークシートを用いて自己分析 自分の得意な点と不得意な点に気付かせ、目標設定を行う。	【テキスト p.42, p.106】 ・自分の得意な点、苦手な点について意識をさせる。学生がイメージしにくい場合は、ペアで考えさせるのもよい。 ・それぞれの特徴に合わせた目標を考えさせる。
30 分	課題の提示	●本日の課題について説明 ・スライドを作成し、一通り完成させること ・授業中、教員・TA からチェックを受けること	・本時の課題と作業についてよく理解させ、グループ内で作業する学生が偏らないように留意する。
	グループ作業	●随時、内容をチェックする ・構成：序論→本論→結論 ・内容の一貫性 ・文字の見やすさ など ●パワーポイントの使い方も随時教える。	【テキスト p.74】 ・内容が繋がったものができているか構成をチェックする。 ・学生が混乱している場合があるので、どのような点を伝えたいのかを引き出すような質問

80 分		*TA にも回ってもらいながら，わからない点の質問を受ける。	を投げかけるようにする。 ・ 始めから細部にこだわらず，内容から議論させる。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに，社会人基礎力と関連させて，自分の態度や行動を評価させる。 ●今日の作業について，教員・TA からフィードバック	【テキスト p.107】 ・ 次回までに分担して調べてくるところを確認させる。 ・ グループ作業においてよかった点をフィードバックする。

第4回：スライド作成実習（2）

- 本時の目標**
- スライドの内容・レイアウト・表現について自己点検し、スライドを完成させる。
 - グループ内で分担を決め、発表の原稿を考える。
 - グループ内で、自分の役割を考え行動する。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
25 分	講義	●本日の予定の確認 ●第一回（7 回まで）の見通し 作業時間がどれくらいあるのかを確認する。 ●ストーリーを作る方法について説明 紙芝居のように話す スライドをつなぐことば ストーリーのまとめ ●進捗状況の確認 ・内容、レイアウト、表現に分けて説明 - スライドの自己点検項目を説明 *チェック項目は下記参照。 ●TA からプレゼンのモデル提示 ・クリーンエネルギーについてのプレゼン ・スライドにおいて、どのような点で工夫したかも説明してもらう。	・今後の予定、作業の流れを説明し、見通しをもたせる。 【テキスト p.12】 【テキスト p.44, p.108】 ・TA のプレゼンテーションを見ることによって、自分がプレゼンをする姿をイメージさせる。
30 分	課題の提示	●本日の課題について説明 ・スライドを作成し、完成させること。 ・リーダーがスライドを自己点検項目に沿ってチェックをすること。 ・授業中、教員・TA からスライドのチェックを受けること。	・本時の課題と作業についてよく理解させ、グループ内で作業する学生が偏らないように留意する。
	グループ作業	●随時、内容をチェックする ・構成：序論→本論→結論 ・内容の一貫性	【テキスト p.76】 ・内容が繋がったものができているか構成をチェックする。

80 分		・文字の見やすさ など ●パワーポイントの使い方は随時教える。 *TA にも回ってもらいながら、わからない点の質問を受ける。	・学生が混乱している場合があるので、どのような点を伝えたいのかを引き出すような質問を投げかけるようにする。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに社会人基礎力と関連させて、自分の態度や行動を評価させる。 過去の授業を振り返り、グループへの貢献度を自己評価させる。 ●今日の作業について、教員・TA からフィードバック	【テキスト p.109】 ・次回までに作業すること、分担することを確認。 ・グループ作業においてよかった点をフィードバックする。

【スライド自己点検項目】

	項 目	チェック
内 容	1. タイトルは適切に発表内容をあらわしている	
	2. 構成が紹介型のフォーマットに従っている	
	3. スライドとスライドの流れがスムーズである	
	4. 聴衆が初めて知ると思われる情報が含まれている	
	5. テーマについて自分たちなりの考えが示されている	
レイアウト	6. 2 行以上の長い文章がない	
	7. 適切な色が使われている	
	8. 写真やデータの引用に出典が書かれている	
	9. 本文フォントは 20 ポイント以上で、全体的に統一されている	
	10. データがある場合は、いつ誰が調査したのか書かれている	
表現	11. 聴衆が理解しやすいような工夫をしている	
	12. 聴衆に興味を持ってもらえるような工夫をしている	
	13. メンバー全員に平等な発表担当箇所がある	
	14. 制限時間内に終わるようにスライドの分量を調節している	
	15. どのようなプレゼンにするかグループでイメージを共有している	

第5回：スライド作成実習（3）

- 本時の目標**
- プレ発表において、全体の構成、役割について説明することができる。
 - より効果的な発表を行うために、必要に応じて修正をする。
 - グループ内で、自分の役割を考え行動する。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
20 分	講義	● 本日の予定の確認 ● 第1回課題（7回まで）の見通し 作業時間がどれくらいあるのかを確認する。 ● レイアウト スライド 1 枚の情報量の工夫について説明 グラフ、表の説明 ● 相互評価 発表練習や相互評価の方法について説明をする	・ 今後の予定、作業の流れを説明し、見通しをもたせる。 【テキスト p.14】 ・ 例を作って、視覚的に見せると分かりやすい。 【テキスト p.46】 ・ 口頭での練習の重要性についてしっかりと伝える。（スライド作成ばかりになりがち）
25 分	課題の提示	● 本日の課題について説明 ・ プレ発表 【方法の説明】：代表者が 3 分以内で全体の流れ（構成）と発表の分担を説明する。 ・ メンバー内で発表の練習をし、評価する。 ・ リーダーがスライドを自己点検項目に沿ってチェックをすること。	・ プレ発表の順番を決める。 ・ プレ発表以外の時間に、スライドの修正と発表練習をさせる。 ・ スライドの自己点検項目を 4 段階でチェックさせる。
	プレ発表とスライドの修正	● 代表者が 3 分以内で全体の流れ（構成）と発表の分担を説明する。 ・ TA や教員からコメントし、修正を行う。 ● グループ毎に修正を行う ・ プレ発表で指摘された点の修正を行う。 ・ 発表時の説明する内容を、考えておく。	【テキスト p.78】 ・ 内容が繋がったものができているか構成をチェックする。 ・ より工夫できる点を指摘し、修正を行う。 ・ グループ内で役割分担ができているか、確認をする。

		・進捗状況のチェックを行う。 ※プレ発表と発表練習は並行して行う。	【テキスト p.110】
80 分	発表練習	●グループで発表練習し、お互いに評価する。 伝え方 1. 声の大きさ 2. スピード 3. 声のトーン 4. 間のとり方 5. アイコンタクト 内容 1. 主張 2. 理由 3. 例・データ 4. 興味 5. 構成 ●評価と振り返り お互いに評価を伝え合い、よかった点と改善点を記入する。 発表の目標を内容と伝え方に分けて設定する。	【テキスト p.112】 ・内容と伝え方のそれぞれの項目について、5 点満点で評価をさせる。 ・客観的な評価を他者から伝えてもらうことで、自分の発表の目標を考える。 ・お互いに評価を伝え合う際、必ず良かった点も伝えさせる。他者の批判にならないよう留意する。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに社会人基礎力と関連させて、自分の態度や行動を評価する。 過去の授業を振り返り、グループへの貢献度を自己評価する。 ●今日の作業について、教員・TA からフィードバック ●次回の発表について説明	【テキスト p.111】 ・どうしてそのように考えるのか、具体的に書かせる。 ・プレ発表においての、よかった点をフィードバックする。 ・原稿を持って説明できないことを確認。

第6回：スライドの相互評価（1）

本時の目標 ●スライドを用いて、自分の考えを効果的に他者に伝えることができる。

●他者の意見を聞き、伝え方・内容において、客観的に評価できる。

場 所 講義室

準備物 テキスト，プレゼンテーションの評価シート

内容

時間	内 容		指導上の留意点
20 分	講義	●本日の予定の確認 ・発表時間：発表（3 分～5 分） - 質疑応答（3 分） - 評価（2 分） ●発表前アンケート ●発表の心構えと準備 - 緊張をどのように考えるか - 最終チェック - 謙虚な姿勢と自然体 ●目標管理 - 目標を持って取り組むことの重要性の確認 - 目標達成の手順について説明 ●注意事項と発表の評価方法について説明 - 発表者：わかりやすく大きな声で話すこと - 発表者以外：質問・評価をすること 評価項目：全体の構成 - 発表内容 - 話し方 - 質疑応答 *発表順を決める	・原稿を持って説明できないことを確認。 【テキスト p.80】 【テキスト p.16】 ・講義を踏まえて、発表の準備を行わせる時間を少しとる。 【テキスト p.48】 ・目標を必ず再確認させる。 ・発表時は、とにかくわかりやすい声の大きさやスピードで話すよう、伝える。
	発表	●各グループの発表（4 グループ） ・発表 ・質疑応答 ・教員・TA からのコメント ・評価シート記入	【プリント：評価シート】 ・ストップウォッチで時間を図る。 ・質疑応答は、はじめ質問をするグループを決めて行くと、ス

70 分		*学生にも発表の評価をさせ、評価シートに記入させる。	ムーズに質問ができる。 ・評価をする学生には、評価の点数だけでなく、必ずコメントを書かせるようにする。
90 分	まとめ	●学生の評価シートを発表グループに渡す ●自己評価と感想 ・発表した学生からのコメント ●今日の発表について、教員・TA からフィードバック	【プリント：評価シート】 ・「緊張した」などというコメントに共感したり、「失敗」と思っている学生に、よかった点をフィードバックすることで、学生が苦手意識を持たないような配慮する。
宿題	個人	●振り返り 自分のプレゼンテーションを振り返り、評価させる。 ・本番の発表でよかった点・改善点 ・感想 ・反省と評価	【テキスト p.114】 ・よかった点と改善点を必ず両方挙げること。苦手な学生は、改善点ばかり挙げるがあるので、両方挙げることを強調する。

■評価シートは、p.82,83 をコピーし、使用する。評価後に発表グループに渡すと学生からの評価が分かり効果的

第7回：スライドの相互評価（2）

本時の目標 ●スライドを用いて、自分の考えを効果的に他者に伝えることができる。

●他者の意見を聞き、伝え方・内容において、客観的に評価できる。

場 所 講義室

準備物 テキスト、プレゼンテーションの評価シート

内容

時間	内 容		指導上の留意点
20 分	講義	●前回の発表の振り返り ●本日の予定の確認 ・発表時間：発表（3 分～5 分） - 質疑応答（3 分） - 評価（2 分） ●他者評価 主観的評価と客観的評価 評価を言語化する意味 ●成果を上げるためにすべきこと ①強みを生かす ②時間を有効に活用する ③重要なことから始める ●注意事項と発表の評価方法について説明 発表者：わかりやすく大きな声で話すこと 発表者以外：質問・評価をすること 評価項目：全体の構成 発表内容 話し方 質疑応答 *発表順を決める	・前回の発表の良かったところ、工夫していたところを振り返る。 ・効果的に伝える方法について意識させる。 【テキスト p.18】 ・評価するのを遠慮する学生が多いため、言語化することを恐れずに、言葉にしてよいこと伝える。 【テキスト p.50】 ・原稿を持って説明できないことを確認。 ・発表時は、とにかくわかりやすい声の大きさやスピードで話すよう、伝える。
	発表	●各グループの発表（4 グループ） ・発表 ・質疑応答 ・教員・TA からのコメント ・評価シート記入	【プリント：評価シート】 ・ストップウォッチで時間を図る。 ・質疑応答は、はじめ質問をするグループを決めて行くと、スムーズに質問ができる。

70 分		*学生にも発表の評価をさせ、評価シートに記入させる。	・評価をする学生には、評価の点数だけでなく、必ずコメントを書かせるようにする。
90 分	まとめ	●学生の評価シートを発表グループに渡す ●自己評価と感想 ・発表した学生からのコメント ●今回の発表について、教員・TA からフィードバック、さらに 2 回を通してコメントする。 ●発表後アンケート	【プリント：評価シート】 ・2 回の発表を通して見られた工夫や、学生の良かったところをコメントし、後半の発表の動機づけを行う。 【テキスト p.81】
宿題	個人	●振り返り 他のグループの発表を聞いて、参考になった点をまとめる ・まねしたい点／まねしてはいけない点 ・1 番よかったグループの分析 ・自己分析	【テキスト p.116】 ・次に生かすことも考えながら、記述させる。

■評価シートは、p.82,83 をコピーし、使用する。評価後に発表グループに渡すと学生からの評価が分かり効果的

第8回：プレゼンテーションの技法（1）

- 本時の目標**
- 前回のプレゼンテーションを振り返り，自己評価し，自分自身の課題を設定する。
 - 他者と協力して，プレゼンテーションテーマについて話し合うことができる。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
15 分	導入	●前回の発表の振り返り ●社会人基礎力のアンケートと自己分析 前期の半分を終えて，社会人基礎力について自己評価する。	第一回課題の発表について振り返り，よかった点，今後期待している点を伝える。 【テキスト p.84】 ・半期の内容をイメージさせながらチェックさせる。
45 分	講義 演習	●1 ランク上のプレゼンテーションを目指す 一流のプレゼンテーションから極意を学ぶ ＊実際にプレゼンテーションを見せる ●一流のプレゼンテーションから学んだことを書かせる ●発表とシェアリング ●プレゼンテーションで最も大切なことは？ 動画を見て出てきた話と合わせ，教科書で内容を確認する。	【テキスト p.20】 ・より効果的なプレゼンテーションにするにはどうすればいいのか，動画を見ながら考えさせる。動画は数種類あるとよい。 【テキスト p.85】 ・シェアリングすることによって，タイプの違うプレゼンテーションやその良さに気付かせる。 【テキスト p.20】
50 分	課題の提示	●第 2 回課題の発表 テーマ 企業研究 スライド作成時の注意について説明 ＊企業研究の目的 関心のある企業を調べ発表することで，その会社の仕組みや社会的な役割について理解する。	【テキスト p.20】 ・企業研究をテーマに取り上げたのは，就職活動の早いスタートを切るためであることを意識させる。 ・学生にとって有益な情報を得られる機会とすることを説明。

80 分	演習	① グループ作り 3 人 1 組のグループをつくる。 ② テーマ決め グループで話し合い、テキストに記入。 ③ グループの目標を決める ④ 次回までに調べてくることを話し合う。 メンバーのアイデアをメモさせる。 プレゼンテーションで伝えたいことは何か 話し合う。	【テキスト p.118】 ・ 関心のある企業や、実際に就職先と考えている企業を調べると、より就職活動の一環と捉えやすい。 ・ 大学院や公務員も可
90 分	まとめ	●各グループの進捗状況を確認 ●授業の感想 テキストに記入 全体でシェアリング	【テキスト p.119】 ・ 次回までに調べてくることを分担することを確認。 ・ グループ作業においてよかった点をフィードバックする。

第9回：プレゼンテーションの技法（2）

- 本時の目標**
- テーマの選択理由を考え、整理し、伝えることができる。
 - 他者と協力して、話し合うことができる。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
30 分	講義	●本日の予定の確認 ●発表までの見通し 作業時間と作業の流れの確認 ●プレゼンテーションの構成 ・提案型 ●プレゼンのポイント ・心をつかむメッセージ ・データの質を高める	・今後の予定、作業の流れを説明し、見通しを持たせる。 【テキスト p.22】 ・1 回目のプレゼンテーションで得られた学生自身の気づきを支持し、よりよりプレゼンに仕上げるためのアドバイスとする。
80 分	グループ活動	●発表テーマ、背景と目的を考える。 テーマの決定・発表の目的をグループ毎に考える。 ●タイムマネジメントの復習 2-2 を復習し、具体的なスケジュールを立てる ●グループ毎に、教員・TA のチェックを受けること。 ⇒曖昧な部分があれば、もう一度書き直して再度チェックを受けさせる。 ●構成案を作る スライドにどのような内容を入れるのかを考えさせる。 ●次回までに調べてくることを考える	【テキスト p.86】 ・テーマは、グループ毎に被らないようにする。 【テキスト p.40,54,118】 ・1 回目の経験をもとに、より具体的なスケジュールを立てさせる。 ・曖昧な部分は、質問をしながら具体的なイメージをさせること。 ・どのような情報が必要か考え、分担させる。

90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに，社会人基礎力と関連させて，自分の態度や行動を評価させる。 ●今日の作業について，教員・TA からフィードバック	【テキスト p.121】 ・次回までに作業すること，分担することを確認。 ・グループ作業においてよかった点をフィードバックする。
------	-----	---	--

【提案型の構成】

段階	内容	スライド
序論	タイトル・発表者の紹介 発表の目次 背景・目的	表紙 スライド 1 枚目 スライド 2 枚目
本論	現状分析 問題 提案 解決までの過程や効果	スライド 3 枚目 スライド 4 枚目 スライド 5 枚目 スライド 6 枚目
結論	まとめ・今後の展望	最後のスライド

第 10 回：プレゼンテーションの技法（3）

- 本時の目標**
- グループ作業において，スライド全体の流れを考え作成する。
 - グループ内で，自分の役割を考え行動する。
 - 発表の分担を行い，発表原稿を作成する。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
25 分	講義	●本日の予定の確認 ●発表までの見通し 作業時間と作業の流れの確認 ●理由の考え方について説明 ・階層的に理由を考える ・理由の質を考える ●説得力を支える 3 要素の復習と自己分析 自分の現在の能力や考えを把握させる	・今後の予定，作業の流れを説明し，見通しを持たせる。 【テキスト p.24】 ・理由を書いたモデル文を参考にしながら説明し，イメージを持たせる。 【テキスト p.42,56,122】 ・1 回目の経験をもとにして，自己分析を深めさせる。
30 分	課題の提示	●本日の課題について説明 ・スライドを作成し，完成させること。 ・授業中，教員・TA からスライドのチェックを受けること。	・本時の課題と作業についてよく理解させ，グループ内で作業する学生が偏らないように留意する。
80 分	グループ活動	●スライド作成 ・構成：序論→本論→結論 ・内容の一貫性 ・文字の見やすさ など ●パワーポイントの使い方は随時教える。 *TA にも回ってもらいながら，わからない点の質問を受ける。	【テキスト p.88】 ・内容が繋がったものになっているか，構成をチェックする。 ・構成案は，テキストに記録させておく。 ・どのような情報が必要か考え，分担させる。

90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに，社会人基礎力と関連させて，自分の態度や行動を評価させる。 ●今日の作業について，教員・TA からフィードバック	【テキスト p.123】 ・次回までに作業をすること，分担することを確認させる。 ・グループ作業においてよかった点をフィードバックする。
------	-----	---	--

第 11 回：プレゼンテーションの技法（4）

- 本時の目標**
- グループ作業において，スライド全体の流れを考え作成する。
 - グループ内で，自分の役割を考え行動する。
 - 発表の分担を行い，発表原稿を作成する。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
25 分	講義	●本日の予定の確認 ●発表までの見通し 作業時間と作業の流れの確認 ●プレゼンテーションのストーリーの作成法について ・全体から詳細へ ・時系列順 ・いらぬもの捨てる ・リズム感を大事にする ・聞き手が理解するスピードに合わせて話す ●進捗状況を確認させる 作業の進み具合を把握させる ●スライドの自己点検項目を説明 ・内容，レイアウト，表現に分けて説明 *チェック項目は下記参照。	・今後の予定，作業の流れを説明し，見通しを持たせる。 【テキスト p.26】 ・学生が作成している流れが，そのようになっているか，テキストの構成案を見ながら確認させる。 ・要約を作ることを説明しておく。 【テキスト p.44,58,124】 【テキスト p.124】 ・グループのリーダーに，自己点検項目をチェックするように指示する。
30 分	課題の提示	●本日の課題について説明 ・スライドを作成し，完成させること。 ・リーダーがスライドを自己点検項目に沿ってチェックをすること。 ・授業中，教員・TA からスライドのチェックを受けること。	・本時の課題と作業についてよく理解させ，グループ内で作業する学生が偏らないように留意する。

80 分	グループ活動	●スライド作成 ・要約を作る：ストーリーのチェック ・構成：つなぎ言葉を入れる ＊内容に一貫性はあるか、文字の見やすさなど ・自己点検項目に沿って、スライドを点検する ●パワーポイントの使い方は随時教える。 ＊TA にも回ってもらいながら、わからない点の質問を受ける。	【テキスト p.90】 ・内容が繋がったものになっているか、構成をチェックする。 ・要約を作り、説明不足な点や繋がりが悪い点をチェックする。 ・どのような情報が必要か考え、分担させる。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに、社会人基礎力と関連させて、自分の態度や行動を評価させる。 ●今日の作業について、教員・TA からフィードバック	【テキスト p.125】 ・次回までに作業をすること、分担することを確認させる。 ・グループ作業においてよかった点をフィードバックする。

【スライド自己点検項目】

	項 目	チェック
内 容	1. タイトルは適切に発表内容をあらわしている	
	2. 構成が紹介型のフォーマットに従っている	
	3. スライドとスライドの流れがスムーズである	
	4. 聴衆が初めて知ると思われる情報が含まれている	
	5. テーマについて自分たちなりの考えが示されている	
レイアウト	6. 2 行以上の長い文章がない	
	7. 適切な色が使われている	
	8. 写真やデータの引用に出典が書かれている	
	9. 本文フォントは 20 ポイント以上で、全体的に統一されている	
	10. データがある場合は、いつ誰が調査したものか書かれている	
表現	11. 聴衆が理解しやすいような工夫をしている	
	12. 聴衆に興味を持ってもらえるような工夫をしている	
	13. メンバー全員に平等な発表担当箇所がある	
	14. 制限時間内に終わるようにスライドの分量を調節している	
	15. どのようなプレゼンにするかグループでイメージを共有している	

第 12 回：プレゼンテーションの技法（5）

- 本時の目標**
- プレ発表において、全体の構成、役割について説明することができる。
 - より効果的な発表を行うために、必要に応じて修正をする。
 - グループ内で、自分の役割を考え行動する。

場 所 PC 室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導上の留意点
15 分	講義	● 本日の予定の確認 ● プレ発表の方法の説明 ・ 代表者が 3 分以内で全体の流れ（構成）と発表の分担を説明する。 ● レイアウトについての説明 ・ キーワード ・ 情報量 ・ 図で示す など ● これまで作成したスライドをチェック - 作成したスライドを見直し、気づいた点を記入しておく。図や表にできるものはイメージ図を記入する。 ● 相互評価のポイントを確認する - 相互に評価し状況を点検する	・ 作業の流れを説明し、見通しをもたせる。 ・ プレ発表の順番を決める。 ・ プレ発表以外の時間に、スライドの修正と発表練習をさせる。 【テキスト p.28】 ・ より効果的なプレゼンテーションを作成するためのポイントを例を用いて示す。 【テキスト p.92】 【テキスト p.46,60,128】 ・ ポイントのみ確認し、各グループ作業内で行わせる。
20 分	課題の提示	● 本日の課題について説明 ・ プレ発表 ・ メンバー内で発表の練習をし、評価する。 ・ リーダーがスライドを自己点検項目に沿ってチェックをすること。	【テキスト p.126】 ・ スライドの自己点検項目を 4 段階でチェックさせる。
	プレ発表とスライドの修正	● 代表者が 3 分以内で全体の流れ（構成）と発表の分担を説明する。 ・ TA や教員からコメントし、修正を行う。	・ 内容が繋がったものができているか構成をチェックする。 ・ より工夫できる点を指摘し、

		●グループ毎に修正を行う ・プレ発表で指摘された点の修正を行う。 ・発表時の説明する内容を、考えておく。 ※プレ発表と発表練習は並行して行う。	修正を行う。 ・グループ内で役割分担ができているか、確認をする。
80 分	発表練習 相互評価	●グループで発表練習し、お互いに評価する。 伝え方 1. 声の大きさ 2. スピード 3. 声のトーン 4. 間のとり方 5. アイコンタクト 内容 1. 主張 2. 理由 3. 例・データ 4. 興味 5. 構成 ●評価と振り返り お互いに評価を伝え合い、よかった点と改善点を記入する。 次回の発表の目標を設定する。	【テキスト p.128】 ・内容と伝え方のそれぞれの項目について、5 点満点で評価をさせる。 ・客観的な評価を他者から伝えてもらうことで、自分の発表の目標を考える。 ・お互いに評価を伝え合う際、必ず良かった点も伝えさせる。他者の批判にならないよう留意する。 ・次回の目標を考える際に、前回の発表の課題を思い出し、それを踏まえて考えさせる。
90 分	まとめ	●自己評価と感想 テキストに社会人基礎力と関連させて、自分の態度や行動を評価する。 過去の授業を振り返り、グループへの貢献度を自己評価する。 ●今日の作業について、教員・TA からフィードバック ●次回の発表について説明	【テキスト p.127】 ・どうしてそのように考えるのか、具体的に書かせる。 ・プレ発表においての、よかった点をフィードバックする。 ・原稿を持って説明できないことを確認。

第13回：スライドの相互評価（1）

本時の目標 ●スライドを用いて、自分の考えを効果的に他者に伝えることができる。

●他者の意見を聞き、伝え方・内容において、客観的に評価できる。

場 所 講義室

準備物 テキスト，評価シート

内容

時間	内 容		指導上の留意点
15 分	講義	●本日の予定の確認 ・発表時間：発表（3 分～5 分） - 質疑応答（3 分） - 評価（2 分） ●発表前アンケート ●発表の心構えと準備 ・発表前の準備（3 日前・直前） ・聴衆への質問 ・質疑応答を利用する ●目標設定 目標の重要性を再認識させ、目標管理をする ●注意事項と発表の評価方法について説明 発表者：わかりやすく大きな声で話すこと 発表者以外：質問・評価をすること 評価項目：全体の構成 発表内容 話し方 質疑応答 *発表順を決める	・原稿を持って説明できないことを確認。 【テキスト p.94】 【テキスト p.30】 ・講義を踏まえて、発表の準備を行わせる時間を少しとる。 【テキスト p.48,62】 ・前回の発表を振り返り、今回の自分の発表の目標を考えさせる。 ・発表時は、とにかくわかりやすい声の大きさやスピードで話すよう、伝える。
	発表	●各グループの発表（4 グループ） ・発表 ・質疑応答 ・教員・TA からのコメント ・評価シート記入	【プリント：評価シート】 ・ストップウォッチで時間を図る。 ・質疑応答は、はじめ質問をするグループを決めて行くと、ス

70 分		* 学生にも発表の評価をさせ、評価シートに記入させる。	ムーズに質問ができる。 ・評価をする学生には、評価の点数だけでなく、必ずコメントを書かせるようにする。
90 分	まとめ	● 学生の評価シートを発表グループに渡す ● 自己評価と感想 ・ 発表した学生からのコメント ● 今日の発表について、教員・TA からフィードバック	【プリント：評価シート】 ・ 2 回の発表を通して、前回よりもよくなった点をフィードバックする。 ・ 学生ができるようになった実感を持たせるようにする。
宿題	個人	● 振り返り 自分のプレゼンテーションを振り返り、評価させる。 ・ 本番の発表でよかった点・改善点 ・ 感想 ・ 反省と評価	【テキスト p.130】 ・ よかった点と改善点を必ず両方挙げること。苦手な学生は、改善点ばかり挙げるがあるので、両方挙げることを強調する。

■評価シートは、p.96,97 をコピーし、使用する。評価後に発表グループに渡すと学生からの評価が分かり効果的。

第14回：スライドの相互評価（2）

本時の目標 ●スライドを用いて、自分の考えを効果的に他者に伝えることができる。

●他者の意見を聞き、伝え方・内容において、客観的に評価できる。

場 所 講義室

準備物 テキスト，評価シート

内容

時間	内 容		指導上の留意点
15 分	講義	●前回の発表の振り返り ●本日の予定の確認 ・発表時間：発表（3 分～5 分） - 質疑応答（3 分） - 評価（2 分） ●他者から学ぶ ・心をひきつける何かと心を話す何か ・1 番と 2 番の差は何かを考える ・評価を議論する（評価基準や判断の違いを知る） ●注意事項と発表の評価方法について説明 発表者：わかりやすく大きな声で話すこと 発表者以外：質問・評価をすること 評価項目：全体の構成 発表内容 話し方 質疑応答 *発表順を決める	・前回の発表の良かったところ，工夫していたところを振り返る。 ・効果的に伝える方法について意識させる。 ・評価するのを遠慮する学生が多いため，言語化するのを恐れずに，言葉にしてよいことを伝える。 【テキスト p.32】 ・原稿を持って説明できないことを確認。 ・前回の発表を振り返り，今回の自分の発表の目標を考えさせる。
70 分	発表	●各グループの発表（4 グループ） ・発表 ・質疑応答 ・教員・TA からのコメント ・評価シート記入 *学生にも発表の評価をさせ，評価シートに記入させる。	【評価シート】 ・ストップウォッチで時間を図る。 ・質疑応答は，はじめ質問をするグループを決めて行くと，スムーズに質問ができる。 ・評価をする学生には，評価の点数だけでなく，必ずコメントを書かせるようにする。

90 分	まとめ	●学生の評価シートを発表グループに渡す ●自己評価と感想 ・発表した学生からのコメント ●今回の発表について，教員・TA からフィードバック，さらに 2 回を通してコメントする。 ●発表後アンケート	【評価シート】 ・2 回の発表を通して，前回よりもよくなった点をフィードバックする。 ・学生ができるようになった実感を持たせるようにする。 【テキスト p.95】
宿題	個人	●振り返り - 他のグループの発表を聞いて，参考になった点をまとめる ・まねしたい点／まねしてはいけない点 ・1 番よかったグループの分析 ・自己分析	【テキスト p.130】 ・今後活かすことも考えながら，記述させる。

■評価シートは， p.96,97 をコピーし，使用する。評価後に発表グループに渡すと学生からの評価が分かり効果的。

第15回：定期試験

- 本時の目標**
- 発表した内容を筋道を立てて論述することができる。
 - 授業を通して学んだことを論述することができる。

場 所 講義室

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
20 分	導入	●プレゼンテーションのまとめ ・2回のプレゼンテーションを通して学んだこと ●マネジメントのまとめ ・マネジメントの要点	【テキスト p.34】 【テキスト p.66】
80 分	試験	●筆記試験（60 分）	【試験問題】
90 分	振り返り	●アンケートと振り返り	

【マネジメントの方法と目的】

方法	目的
①目標設定	課題の全体像を把握し目標設定する
②タイムマネジメント	具体的なスケジュールを立てる
③説得力と自己分析	自分の現在の能力や考えを把握する
④進捗状況の確認	作業の進み具合を把握する
⑤相互評価	相互に評価し状況を点検する
⑥目標達成	目標管理をする
⑦成果を上げる	もっと成果を上げるために改善点を考える

授業日記

2012.4.5.

「プレゼンテーション初日」

「プレゼンテーション」は、2年生の前期科目です。今日はその初日でした。

1年次に、「コミュニケーション論Ⅰ」「コミュニケーション論Ⅱ」で1年を通して議論スキルを学び、それに続くのが「プレゼンテーション」というカリキュラムになっています。

したがって、授業開始時には周りの友達との関係も、私との関係もある程度できた状態でスタートできます。

今日の学生の雰囲気を見ながら、改めてこの科目の特徴だなと感じます。

プレゼンテーションのような緊張感のある授業にとっては、とてもやりやすい環境です。

私は学生たちの3期目の担当となります。

学生とは、春休みを経て「久しぶり」という感じで、いつもの日常が戻ってきたような、そんな感じです。

学生同士でも、久しぶりに会う学生たちもいるようで、何となく楽しそうです。

大学にもすっかり慣れ楽しそうな学生たちの姿は、何となくすがすがしい感じがします。

さて、そんな学生たちとプレゼンテーションの授業がスタートです。

プレゼンテーションは、より学生の個性が発揮されますので、どのような展開になるのかとても楽しみです。

始めに、講義概要を説明しました。

実際に前に出て発表をするのが2回、課題として課されます。

何だか楽しみだという表情の学生もいれば、不安そうな学生もいます。

第1回目の課題は、「クリーンエネルギー」がテーマです。

どのような発表になるのか楽しみです。

そして、発表もさることながら、グループ活動を通じた今後の学生の成長に期待しています。

「マネジメント入門」

2 回目の授業です。

実質、今日からがグループに分かれてのスライド作成に入ります。

さて、早速、今後のスケジュールの確認です。

この授業では、前期 15 回の間に、2 回プレゼンテーションを行います。

つまり、前半 7 回目までに、1 回目の課題のプレゼンテーションが終わります。

6 回目・7 回目授業は、発表日になりますから、実際に準備できるのは 5 回目までです。

5 回目って…

具体的に日付を確認。

意外と時間がないのが分かります。

しかも、5 回目にはプレ発表を行いますから、5 回目の授業日には完成させておかねばなりません。

現実が分かると、学生たちもピリッとしますね。

まさに、制約の中で仕事をするのと同じです。

この現実感が湧いたところで…

マネジメント入門です。

実は、本学のプレゼンテーションの授業では、マネジメントも並行して学ぶことができるように設計されています。

今日は、タイムマネジメントから話を始めて、プレゼンテーションの作業における、制約について考えてみました。

最近では、“もしドラ” こと、“もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら” が話題になりました。

学生たちも少なからず興味があるように感じます。

「“マネジメント” も一緒に学習していくからね」に少し嬉しそうにしていたように感じます。

学生は、学習の中で、未来につながるものを見出せると、本当にキラキラとするなぁと思います。

今、学習していることが、将来の仕事をしている自分に繋がると感じると素直に頑張りますね。

“大人になる” というステップが嬉しいのかなと思います。

友達とも、協力して、スライド作成と発表を行ってほしいと思います。

「ロゴス・パトス・エトス」

今日は、説得力を支える3要素について説明をしました。

ロゴスは論理、パトスは熱意、エトスは人格。

この3つをバランスよく兼ね備えていることで、説得力の高いプレゼンテーションを行うことができます。

ロゴスは論理、パトスは熱意、エトスは…人格？

論理や熱意は理解しやすいのですが、人格って…？

始めは、少しきょとん…としているように見えました。

私はよく「誠実に発表する」重要性を学生たちに伝えています。

プレゼンテーションというと、話し手がとても流暢な人であったり、スライドが技巧的でとても工夫されていたり、プレゼンテーションそのものに特徴があるようなプロをイメージすることがあります。

しかし、プレゼンテーションって、そんな特別なものではなくて、実際はもっと日常的に行われているものだと思うのです。

学生たちにとっては、授業中の発表もプレゼンテーションですし、

就職活動では、面接の場がまさに自分についてのプレゼンテーションです。

社会に出て働くようになれば、会議の場など、なおさらプレゼンテーションの機会は多いでしょう。

その時に大事なのって、やはり誠実さだと思います。

「～さんがそう言うなら」という信頼関係で、ことがうまくいくこともきっとありますよね。

うまく伝えたいと思うものですが、

論理的に、熱意をもって、そして、誠実に伝わるように話すというのは、とても大事なことだと思っています。

こんな話をしていると、エトス（人格）の部分が伝わったようです。

ロゴス・パトス・エトス

学生にとっては、単語として面白かったようで、何だか覚えようとつぶやいていました。

学生はかわいいですね。すぐ使ってくれます。

プレゼンテーションの場面で、ふと思い出してくれると嬉しいです。

「TAとのコミュニケーション」

スライドの作成作業も随分と進んできました。

PCを使い慣れている学生もいれば、慣れていない学生もいて、内容は決まっているものの、イメージにあるものをどうやって表現しようか、考えているところのようです。

スライドは、シンプルなデザインであったり、印象に残るように、タイミングよく画像を登場させたり、頭の中にあるものを具現化しようと、それぞれが工夫を凝らしています。

さて、相手に伝わるような形で具現化できればいいのですが、グループによっては、“？”というものも当然あります。

これは何のために入れた図（写真・イラスト・図表）なのか？
この矢印は何なのか…？

そんな時に活躍してくれるのが、TAです。

TAは、学生が困っている時にアドバイスしてくることはもちろんですが、学生が具現化しようとしているものをチェックし、質問し、他者からそのスライドがどのように見えているかを伝えてくれる人でもあります。

「これは何？」というあまりにも単純な質問も飛び交います。そこで、学生が表現していくうちに、説明するには足りないもの、付け加えた方がいいものが見えてきます。

このTAとの時間は、学生にとってとても重要なものだと感じます。

なぜなら、

- ①プレゼンテーションを見てもらい、客観的な評価をもらうことができるため
- ②会話を通して、自分が実現したいものを具体的にイメージすることができるため
- ③より効果的なプレゼンテーションにするためのアドバイスをもらうことができるため

そして、何より、自分たちより少し年上の先輩が、自分たち以上にできる姿を見て、「すごいな」とか、「なるほど」と感じてもらい、その先輩に近づこうとする気持ちが生まれること、

よりよりモデルがいると、学生たちも先輩から学ぶものが大きいようです。
先輩とのコミュニケーションを楽しんでいる学生もいるようです。

人から受ける影響というのは、本当に大きいものです。
私ももちろん、グループを周りながら指導しているのですが、
この TA の存在によって、より学生が生き生きとしているのではと思います。

そして、TA にとっても、後輩から頼られる存在になると、嬉しそうです。
ちょっと困った学生の質問にも、よくつき合ってくれます。

先輩の存在は大きいですね。

「発表が苦手な学生」

日頃から声が小さく、発表は苦手かなと思う学生は、必ずいます。
そのような学生にとっては、この授業は嫌なのではないかと、少し心配になったりします。

私に何ができるのか・・・という、やはり自信をつけてあげることだと思います。
「自分でもできる」
という自信をもつことができると、きっと次に繋がる
そう思います。

そのためには、第1回目の発表の時にある程度の感触をつかませること、
それがやはり大事です。

いかに、できそうだという感触をもたせるか。
そして、できたという達成感を持たせたい。

もちろん、全体の講義の中で、色々と話は盛り込むのですが、
苦手意識がある学生に対しては、やっぱり、個別に話してみるしかないなと思います。

自信がなさそうな時って、分かりますよね。
語り口調に自信があまりなくても、
スライドの内容に自信が持てたり、
何か1つ、“ここはいける！”みたいなものを持てると、少し一歩進めるようです。

学生のその素直さに、私も“いける！”と感じます。

今日は、「プレ発表」でした。
全体のスライドの流れを確認し、分かりにくいところは修正をしました。

何となく、自信のないスライドがあったり、
スライドの繋ぎがスムーズではなかったり。

そのような点を改善して、
相手に伝わるようなスライドに仕上げていきます。

そして、自分たちが“ここは伝えたい”と感じているところをより伝わりやすいように工夫したり、
私からも「面白い！」と感じる内容を伝え返すと、学生は素直に嬉しそうにします。

「よかった～」と安堵する声が聞こえてきたりします。
成功イメージが持てたんでしょうね。

発表があまり得意でない学生に対しても、役割を確認したりします。
発表で特に強調したらいいと感じるところ、大事なところを確認し、役割をしっかり持ってもらいます。

そうすると、少し身が引き締まるように感じるようで、
「ここは忘れないように」と、自らに言い聞かせています。

学生は、柔軟です。
少し苦手意識があったとしても、
どのようにすればいいかということが分かると、
自分なりに工夫して、それを越えようとしてくれます。

学生の柔軟さを信じるのが、私は好きです。
そして、達成感を味わえるように、日頃から種を蒔いておく。
そんなイメージで授業をしています。

来週は、発表です。
うまくいきそうです。

「第1回プレゼン発表会①」

さて、今日は、初めての発表会です。

発表直前に、何ができるかということ…そう多くはないですね。
やはり、大きな声で話すというのを心がけると、内容の確認です。

直前の準備を見ていると、学生によってカラーがあります。
今日は特に始めてだったからか、よく特徴が出ていたように思います。

しっかりと、話す内容を自分の言葉で書いて原稿のようなものを準備して読み込んでいる学生、
スライドの内容を見ている学生、
補足資料を見ている学生、
あまりプリントは見ずに、友達と話して確認している学生。

そして、グループとして、
一緒に全体の内容を確認しているグループ、
個人で自分の持ち場を確認しているグループ、
がありました。

それぞれが、直前の時間を使って、パフォーマンスを高めようとしているようでした。

発表前アンケートには、
「つまりそうで怖い」
「話そうとしていたことが飛ぶことが不安」
「質問された時に、ちゃんと答えられるかが不安」
といった不安の声が多く挙がっていました。
やはり、緊張によって思うようにいかないかもしれないというのが不安になるようです。

さて、実際の発表では…
緊張もしていたと思いますが、しっかりと発表してくれていました。
それぞれが前を向いて役割を果たそうとしているのが分かり、私としては、嬉しくなる瞬間です。

学生本人としては、
すべてがうまくいったとはいかないようでしたが、
前を向こうと一生懸命話している姿は好感が持てます。

周りからの評価を聴いて、
“悪くない感触”を得られると、ほっとしたようでした。

この“悪くない感触”って、必要だなと思います。

どの学生も、“悪くないぞ”“何とかなったぞ”“意外といいかも”という感触を持って、
次に繋げて欲しいと思います。

来週も楽しみです。

2012.5.24.

「第2回プレゼン発表会②」

今日は、プレゼンテーション2回目でした。
後半グループの発表です。

前回、前半グループの発表を見ているので、発表に工夫が見られました。
声の大きさや、指し棒を使ってグラフに注目させるなど、
発表の仕方が上手になっているように思います。

学生は、素直に人の発表から学んでいるんですね。

また、発表になると、表情がきりっとしたり、
視線が聴衆を向いていたり、
学生たちなりの“切り替え”が見えたように思います。

発表に対する真摯な態度は、何より発表の大事な要素ですね。

発表を終えて、
やはり学生たちは「緊張した」という声が多く聞かれました。

けれど、
「またやりたい」
「楽しかった」
という素直な気持ちを聴くと、私も嬉しくなります。

さらに、
「次回は、もっとうまくできるようにしたい」
「準備の時に取り掛かりが遅くメンバーに迷惑をかけたので、次回はしっかりと役割を果たしたい」
と、次回に向けての意気込みを語ってくれました。

もう、次回に目が向いていますね。
今回の発表でいい感触を掴んでくれたのだと思います。

来週から、授業も後半です。
より高度なプレゼンテーションを目指して頑張りましょう。

「一流のプレゼンテーション」

今日から、授業も後半に入ります。

第2回課題の準備です。

1回目のプレゼンテーションで手ごたえを感じてくれたようですので、ここからよりレベルの高いプレゼンテーションを目指すために、“一流”と呼ばれているプレゼンテーションを見てもらいました。

学生に見せた動画は3つです。

1つめは、ランディ・パウシュの「最後の授業」。
バーチャルリアリティの第一人者と言われるランディ・パウシュは、46歳という若さでガンが見つかり、医師から「あと3か月から半年」と命の宣告をされました。幼い3人の子どもを持つ彼が、大学での最後の授業で語ったのは、『子供のころからの夢を実現するために』です。

2つめは、スティーブ・ジョブズのiPhone発表。
iPhoneを初公開するスティーブ・ジョブズのプレゼンテーションです。

この2つのプレゼンテーションは英語のもの。

3つめは、孫正義さんが自分のこれまでを振り返り語ったプレゼンテーションの一部。
日本語でのプレゼンテーションです。

さて、どのプレゼンテーションも、学生たちは、食い入るように見ていました。

そして、学生たちが、さすが“一流”と感じていたのは、
“ユーモアがあること”
“シンプルであること”
“リズム感があること” でした。

特に、ユーモアがあることについては、学生たちは憧れるようですね。
ランディ・パウシュのプレゼンは、自分のガンについても触れているのですが、ユーモアを入れながら話が進んでいます。
そのユーモアから、聴衆をぐっと惹きつけていると感じたようです。

シンプルさもまた、自分たちのスライドとの違いをより感じたようでした。
どうしても、スライドの言葉に頼りがちになるのですが、ジョブズのスライドは単語1語だったり、写真のみであったり。
それは、とてもかっこよく映ったようです。

また、リズム感。
早く語っていても、間や抑揚があることで、そう早く感じなかったり。
孫さんの語り口調のように、ゆっくりの語り口調が心地よかったり。

自分のプレゼンテーションはどうだろうかと振り返ることができたようです。

私は、プレゼンテーションを語る時に、“誰かのようにならなくていい”と伝えています。
“自分の強みを活かせばいいのだ”と。

基本的なことをおさえる必要はありますが、誰かと全く同じにする必要はありません。
同じユーモアでも、語る人が違えば伝わり方も変わります。
リズムもそうですね。

一流のプレゼンに学びながら、自分の強みを理解して、より高度なプレゼンテーションを目指してほしいと思います。

2012.6.7.

「限られた時間の中で」

今日から、より具体的にグループ作業が始まりました。

プレゼンテーションの授業も2回目の発表準備となると、
全体の流れ、時間の感覚が掴めてきて、
いつまでに、どのくらいのことをしておかなければならないという感覚が身についてくるようです。

第1回目課題の時の学生の作業を見ていると、
「これをやりたい!」と明確にある場合は、とことん時間をかけて作業することが多いです。

調べることに時間を割く場合もありますし、
図や表、挿絵に使用するイラストを時間をかけて探したり、
イメージするものがある時は、それを具現化するために、とても集中して作っている時もあります。

例えば、表紙。
スライドの表紙は、タイトルと氏名が載るわけですが、
そのデザインに凝ったり。
1枚目だけ、とても目を惹く印象的なスライドになっていたりします。

少し笑ってしまいそうになるのですが、
考えたことを形にしたい気持ちはよく分かるので、あまり多くは口を出さないようにしています。

ただし、2回目の発表になると、
そのような学生も時間のかけ方、作業のバランスが良くなると思います。

先を見通す力も付いてくるのでしょう。
安心して作業を見ることができるようになります。

限られた時間のなかで、どの作業を優先するか。
これもとても大事な演習になっていることを実感します。

「自分の発表ビデオを見せました」

自分の姿を映像で見るのは、嫌だという学生がほとんどです。
しかし、授業での効果はかなり高いと思っています。

学生たちに、1 回目の発表している姿を見てもらいました。
学生たちは、例によって「いやー」と言いながらしぶしぶです。

さすがに、全体の前で自分の姿が晒されるのは嫌だろうと思い、発表グループ 3 名と教員と T A の 5 名で、自分たちの発表を見ることにしました。

ビデオを見て早速、
「何でこんなに手が動いてるんだろう？」
「声ちっちゃい」
「下ばかり向いてる」
と、学生から次々に出てきます。

私から何かを伝えるというよりはむしろ、彼らが気づいたことを言っていくという感じです。
その方が、学ぶところも大きいかなと思います。
私からは、自分が想像していたプレゼンとの違いを尋ねたりしています。

「もっと声、出てると思ってた」。
学生からよく聞かれる言葉です。

立ち位置やどのような姿で立っているのかもビデオで見ると、客観的に分かります。
自信がない学生は、スライドから離れたくなるのか、スクリーンから離れたところに立っていて、スクリーンとのバランスが悪かったりします。
また、グループの他の人の発表の時に、ぼーっとしていたり、動いていたり。
自分では、出番が終わったつもりになっているかもしれませんが、前に立っている限り、聴衆からはよく見えているものです。

ビデオを見ながら、自分の特徴や癖を見つけると、
「次はもっと」と思うようです。

私からは、なるべく学生のプレゼンで良かった点をフィードバックするようにしています。
前を見る姿勢、聴衆への語り方、誠実な語り口調…
学生が自分の特徴を分かり、それをプレゼンに活かしてくれたらと思います。

「情報収集とまとめる難しさ」

学生は、「まとめるのが難しい」とよく言います。

まとめるにあたって、情報収集ができている学生とできていない学生がいるように感じます。
また、必要な情報を取り込むのが上手な学生とそれが難しい学生もいます。

グループでの作業の様子を見ていると、
考えていることはあるのに、欲しい情報が手に入らず苦心している学生もいれば、
面白いと思った雑誌を持ってきては、自分で読み込んでいる学生がいたり、
自分で調べたことをたくさん印刷してきては、広げてグループのメンバーに紹介している様子も見られます。

単純に、情報を取り入れている段階は楽しそうなのですが、
プレゼンテーションにとって必要な情報は…という視点で見ると、難しいと感じる学生もいるようです。
また、新しい情報を読んでは、やっぱりこっちにしようかなと、内容を変更したくなることもあるようです。

一度、プレゼンテーションを経験しているからこそ、
「より分かりやすくしたい」との思いで、情報収集にも力が入っているのも感じます。
それは、嬉しいことです。

しかし、“何を伝えたいのか？”が見えにくくなっていることも。

一度、自分たちのスライドを、ちょっと引いてみる。
それも、大事なことですよね。

そして、必要のない情報は捨てる。
それも、大事なことです。

準備のための情報収集はたくさんしておきますが、それを捨てる勇気も必要。
無駄になることは決してなくて、質疑応答の時に活かされることもあります。

そうやって試行錯誤して、いいプレゼンが出来上がります。

私個人的には、そうやってグループ内で、
学生が、ああでもないこうでもない…

と、考えているのはとてもいい時間だと思います。

出来上がった時の満足感も高まります。

妥協せずに、考え抜いて欲しいと思います。

出来上がりを楽しみにしています。

「なりたい自分」

今日は、「プレ発表」でした。

1回目のプレゼンテーションを経験している分、修正の必要性を自分で感じていて、
どうしたらいいかという相談が多くなりました。
それぞれが、いい発表ができるように工夫してくれています。

そして、今日はグループ内で発表練習をするようにしています。
前回の発表の時は、正直言って、発表練習まで余裕がなかったグループもあったことと思います。
しかし、最後の発表に備えて、それぞれが発表練習をするようにしました。

なりたい自分、
そんな自分が発表する姿をイメージして、本番に備えます。

さて、なりたい自分を日頃から考えている学生はどれくらいいるのだろうかと思います。

コンプレックスや苦手なものがあったりして、
どうしてもこれは克服したいと考えている学生も確かにいます。

その一方で、
ただ、何となくできて、何となくこなして、何となく過ぎていく…
そんな学生もやはりいると思います。

これまでも、プレゼンテーションの授業の前から、
“就職活動”を意識させてきました。
就職活動に向けての1つのステップとして、この科目もあると感じています。

「いい企業」は人それぞれです。
自分にとってのいい企業を見つけなければ、どんなに大手の企業だろうと何の価値もありません。

「なりたい自分」も人それぞれです。
なりたい自分はどんな自分なのか、イメージを具体化して、明確な目標として持つ・・・
そして、その目標に向かって頑張っていく。
そんな力をこの科目でも養ってほしいと考えています。

ただ何となくではなくて、
なりたい自分の姿を明確にイメージすること、

そして、それを実現すること、
その先に、就職もあると思います。

学生には、しっかり時間をとって考えてもらっています。
まずは、プレゼンテーションでのなりたい自分を実現させてもらいたいと思います。

とても楽しみです。
期待しています。

2012.7.5.

「第2回プレゼン発表会①」

今日は、2回目の発表会でした。

テーマは「企業研究」です。

1回目のプレゼンテーションを経験しているので、やはり1回目のそわそわした感じとは違いますね。前回よりも落ち着いているように見えます。

そして、1回目の発表と特に違うとを感じるのが、
「声の大きさ」と「アイコンタクト」、「スライドの繋ぎの言葉」です。

ビデオを見た後に、
自分の課題が見えたと感じた学生も多かったので、今回の発表に活かしてくれたのだと感じました。

それぞれの課題は違いますが、
聴衆の方を向いて、“伝えよう”という意識が見えました。

そのような発表は、聴いている方も気持ちがいいものですね。
伝えようとしてくれていることが理解できると、
少し手間どってしまったとしても、聴いている方は気にならないものです。

また、前回は、スライドとスライドが1つずつのようなイメージがありましたが、
今回の発表では、スライドの繋ぎの言葉が分かりやすくなっていて、
よりストーリーが分かりやすくなっていました。

前半グループの発表がいいものになると、後半グループはちょっとプレッシャーのようです。
次回の発表も楽しみにしています。

「第2回プレゼン発表会②」

今日は、後半グループの発表でした。

授業が始まる前に、
早めに教室に来て、グループで発表内容を確認しているグループもありました。
いい発表をしたいという気持ちが嬉しいのです。

さて、後半グループの発表を見ながら、
学生たちも発表を楽しんで見ていることに気付きました。

もちろん、1回目の発表の時から、他のグループのことはよく見ていたと思います。
発表を見ての評価もさせていましたし。
けれど、1回目の発表の時とは違う、楽しげな雰囲気を感じました。

それは、学生たちもプレゼンテーションに対する見る目が出来て、
他のグループがどんな発表をするのか、
ということに、とても関心が高まっているようでした。

日頃、同じクラスで過ごしている友達が、
びしっと前を見て、大きな声で発表する姿は、やはりカッコいいですし、
作成中悩んでいたところを知っているだけに、
どんな仕上がりになったのか、
とても興味があるようでした。

そして、やはりプレゼンテーションとしてのパフォーマンスをよく見ているようでした。
見られることで、より発表者も気合いが入ります。

友達から学ぶことは本当に多いです。
お互いを刺激し合う、そんなクラスになっていることに、
改めて嬉しいと思いました。

そして、これからもお互いを刺激し合っていってほしいと思います。

2012.7.19.

「プレゼンテーション 試験」

今日は、記述式の試験。

発表で説明した内容を記述してもらいました。

授業の最後に、

今日で私の授業は終わりであることを伝えました。

前の科目から合わせると、1年半担当してきたわけですから、

何だかちょっと寂しくなりました。

学生たちが、ちょっとしんみりと話を聞いてくれて。

これまでの授業を素直に「楽しかった」、「勉強になった」、「力がついたと思う」と言ってくれるのを聴くと、本当に嬉しくなります。

この授業で培ったものは、なかなか点数で表れません。

しかし、確実に力をつけていますから、

自分ができたこと、しっかりと自分で認めてください。

そして、

どんな風になりたいのか、次の目標へ向けて頑張ってください。

今後の成長も楽しみです。

著者紹介

中野 美香

福岡工業大学工学部電気工学科 准教授。

九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化専攻博士後期課程修了。博士（比較社会文化）。

知の基盤となる領域横断的な人間の思考の発達について，（１）大学生・大学院生（１８から３０才くらいまでの時期）の発達段階，（２）他者との相互作用による思考過程の影響，（３）学習が最適化される学習環境づくり，（４）これらの教育に関するプログラム・カリキュラム開発，について研究を行っている。近年は議論における思考と表現のスキルに注目し，工学教育の手法の開発に従事。近著『議論能力の熟達化プロセスに基づいた指導法の提案』ナカニシヤ出版（２０１１），『大学生からのプレゼンテーション入門』ナカニシヤ出版（２０１２）。

（プログラム全体の教育設計および「指導ガイドライン」開発担当）

nakano@fit.ac.jp

宮本 知加子

福岡工業大学FD推進機構特任教員。臨床心理士。

大学卒業後，通信制高校の教諭となり，国語科を担当。不登校クラスを担当し，不登校に悩む生徒・保護者に寄り添ううちに，臨床心理学を学ぶ必要性を感じる。その後，九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻専門職学位課程修了。スクールカウンセラー，発達教育センターでの教育相談員を務め，不登校や発達障害に関する相談に携わる。また，特定非営利活動法人「九州大学こころとそだちの相談室」と福岡市の共働事業の１つである心理教育を市内の小中学校にて担当。福岡工業大学での『プレゼンテーション』『コミュニケーション論Ⅱ』の非常勤講師を経て，現職。

（「１指導ガイドライン」「２授業日記」執筆担当）

c-miyamoto@fit.ac.jp